

<

AdChoices

ホーム > ニュース > 経済

台湾半導体、海外拠点も拡充...「半導体学院」では日本の技術者育成へ

2023/10/23 07:00

スクラップ



明新科技大学の半導体学院で製造工程を学ぶ学生ら。同大は日本人に特化した「日本コース」を設ける方針だ（台湾新竹県で）＝井戸田崇志撮影

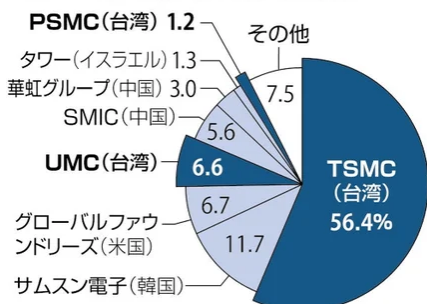
半導体の受託製造を手がける台湾の「台湾積体回路製造（TSMC）」と「聯華電子（UMC）」が、相次いで海外で生産拠点の拡充を進めている。台湾当局はこれまで、台湾での生産を促してきたが、半導体の安定確保を目指す日米欧の政府や企業の意向もあり、海外進出を容認する方針に転じた。（台北 井戸田崇志）

シリコンの盾

[PR]

半導体受託製造の世界シェアは台湾企業が6割以上を占める

※トレンドフォース調べ、2023年4-6月期のシェア



ソニーグループなどと共同で総額1兆円以上を投じ、熊本県に生産拠点を整備しているTSMCは今年8月、独東部ドレスデンにも工場を建設することを決めた。魏哲家CEO（最高経営責任者）は「自動車と産業分野で欧州は有望だ」と話し、投資額は100億ユーロ（約1・6兆円）を超える。TSMCが70%、独自自動車部品大手のボッシュなど3社が計30%を出資する。

TSMCは米アリゾナ州でも400億ドル（約5・9兆円）を投じて新工場を建設しており、3か国目の大型投資となる。UMCもシンガポールに50億ドルを投じ、2024年後半に新工場を稼働させる予定だ。

台湾の調査会社トレンドフォースによると、TSMCは半導体の受託製造で世界シェア（占有率）の56・4%を握る。4位のUMC（6・6%）などを含め、台湾勢のシェアは64%に達し、半導体は台湾の輸出総額の約4割を占める基幹産業となっている。

台湾当局は安全保障上の観点から、地元での半導体の生産を重視してきた。台湾有事の際に半導体の供給網が混乱することを中国や国際社会に認識させて抑止力とする戦略で、「シリコンの盾」と呼ばれる。

日本コース

当局が海外進出を容認するようになったのは、米中対立を踏まえてサプライチェーン（供給網）の再構築を進める日米欧の意向だけでなく、地元での人材不足も背景にある。

当局は人材不足の解消には国際連携が不可欠とみており、台湾の明新科技大学の専門学部「半導体学院」は24年2月にも、日本人を対象にした「日本コース」を新設する。学院には当局が施設整備費などを補助しており、日本企業の技術者の受け入れも想定する。

劉国偉学長は、「台湾と日本の半導体産業は密接な関係にある。日本の人材を育成することは、台湾にとってもメリットが大きい」と話す。

あわせて読みたい

- NYダウ終値、190ドル安の3万2936ドル...5か月ぶりに3万3000ドル台割り込む
- イオンの衣料品売り場「専門店」風に...第1号の浦和美国店、年齢層やシーンごとに6エリア
- 「カップ総菜」コンビニ注力、新商品や商品棚拡大...食べやすさから「もう一品」で売り上げ増
- 「NauNau」200万人超の位置情報など外部閲覧できる状態に...チャット内容も流出か

→ 株・為替情報はこちら

📁 スクラップ ⓘ 使い方

「経済」の最新記事一覧 >

広告 がん患者の痛みに寄り添う「サポーターケア」とは

広告 村上春樹『街とその不確かな壁』が描くもの

広告

OZYO 歐姫兒 ✓

蜂王乳系列 47折

加碼再抽萬元旅行大禮